

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 213 号	2019年4月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 3月31日（日）二俣瀬ふれあいセンター会議室にて、平成31年度の総会を開催し、24名の参加がありました。
 - （1）つくる会と観察隊の30年度の活動報告があり、承認されました。
 - （2）30年度の会計報告と監査報告があり、承認されました。
 - （3）組織の変更は、新会長に原田満州夫会員が選出され、会計担当に若林事務局が任命されました。
 - （4）規約改定は、遊ロードに関する記述を削除しました。
 - （5）31年度の活動計画が報告され、稲作体験、会報、エコアップ、維持活動が継続して行われます。
 - （6）31年度の傷害保険の説明がありました。
 - （7）その他として、宇部市環境政策課の担当が変わるとの事でした。

- 4月7日（日）会員10名が参加し、水抜き側溝の設置（東屋横）、物置棚の補修、竹林の整備、除去草の焼却を実施しました。

- 4月20日（土）ビオトープに集合し、受付を済ませ、結隊式を現地で行い、年間スケジュールやビオトープでの諸注意などを説明しました。今回は食べられる野草がテーマで、最初にタケノコ掘りを、そばの竹林で行いましたが、子供たちは苦勞していました。帰りながらビオトープで野草を採取し、食べれるか選別しました。食べられる野草は天ぷらにして、皆様に食べてもらいました。参加者は、親子自然観察隊（親15名、子19名）とつくる会19名でした。天気も良く、観察隊の親子も十分に楽しめたと思います。

2. 今後の予定（事務局 記）

- ◎来訪者
予定はありません。
- ◎行 事
 - 5月5日（日）維持活動（草刈り、稲作準備溝あげ、エコアップ、修復作業）
 - 5月18日（土）親子自然観察隊（野鳥観察）
 - 5月25日（土）維持活動（田植え準備、溝上げ・草刈り）

3. 来訪者の声

- 今回はありません。

4. 会長挨拶 原田満洲夫

前会長原田賢治氏の急なご逝去により、3代目の会長の重職を引き受けることになりました。折しも平成の御代から「令和」の代に移り行く時「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」も19年目を迎えました。よくぞこの会も長く続いたものであると関心もし、大変うれしく思っています。

さらに今後も末永くこの会の継続を任され、心引き締まる思いです。それには何と云っても創設時の初心に戻ることに肝心であろうかと存じます。

当初創設に当たって3大コンセプトを会員一同で取り決めた

- ① 宇部市民憩いの場とする。
- ② 環境学習の場とする。
- ③ 二俣瀬をアピールする場とする。

を初心に帰り会員各位がそれらに従った活動を継続していきたいものであります。

来年度9月15日は、創設20周年になります。まずは、これに向かつてのイベントの立案やビオトープ・二俣瀬のシンボルである ϕ 5mの水車修復・更なるエコアップ等々課題が沢山あり、3大コンセプトに恥じない活動をより多く求められています。その為には、各会員個人のキャパシティを上げることも大切ですが、より多くの会員を募ってこれに対応しなければなりません。

会員の皆様方の更なるご協力を願ってやみません。

5. 会員の声 「里山二俣瀬ビオトープの活動に参加して」 (森 尚子 記)

私が、里山二俣瀬ビオトープの活動を知ったのが、2017年の冬のことでした。私はときわ動物園で勤務しているのですが、その頃、動物園で開催する企画展の準備中でした。その企画展の中で里山の紹介をしたいと思いますと考えました。動物園の役割の一つに教育普及があります。動物について興味関心を持ってもらい、環境問題について学ぶ場でもあります。日本の野生動物にとって重要な場所、里山。その役割について、伝えたい。そこから縁があり、二俣瀬ビオトープに足を踏み入れました。

小川が流れ、畑とビオトープはきれいに整備されており、私は最初とても驚きました。そして、維持管理などの話を聞いているうちに、実際に里山での活動を経験してみたいと考えようになりました。自分が経験することでより深く理解し、伝えることができるのではないかと思います、この活動に参加することにしました。維持活動の他、観察隊では春の野草を天ぷらにして食べてみたり、田植えにも参加しました。活動を通して印象的だったのが、子どもたちの笑顔でした。子ども達がこのような経験ができる場所が減ってきている今、とても重要な活動であるということを実感しました。

仕事が忙しく、活動に参加できない日もありますが、できる限り参加し多くの方に自然の素晴らしさ、厳しさ、そして里山について知っていただきたいと思っています。

6. 親子自然観察隊 「結隊式・野草の観察会」 (管 哲郎 記)

結隊式：今年の結隊式は現地の東屋に直接集合し、受付、資料の配布などを行いました。今年の入隊者は18家族29名ですが、14家族19名の出席があり、好天の中「結隊式」を行いました。原田満洲夫会長の挨拶より始まり、関根事務局長、管隊長、中本副隊長、若林会員の報告の後、原谷会員よりフィールド内における注意事項等を説明していただきました。今年にはさらに各隊員の”自己責任“を自覚していただくために、「入隊誓約書」をかわしました。

食べられる野草の採集と試食会：結隊式の後、原谷会員より「春の七草」の説明を受けました。皆さんの知らない知識も披露され、大変勉強になったようです。そのあと早速全員で竹林に移動し、タケノコ堀を行いました。前日の事前調査ではタケノコは5本しか確認できませんでしたので、掘り取る道具を3本しか用意していませんでしたが、うれしい誤算で皆さんの努力の結果、十数本のタケノコが見つかり、至急倉庫より掘り取る道具を追加しました。親も子も掘り取る経験ができ、まずまずの成果を上げました。タケノコは小ぶりでしたが、掘って楽しむには十分でした。帰りに食べられる野草を捜し、天ぷらにしておいしくいただきました。

春の七草：セリ・ナズナ・ゴギョウ (ハハコグサ)・ハコベ・

ホトケノザ (コオニタビラコ)・スズナ (カブダイコン)・スズシロ (大根)。

採集された野草：ヨモギ・スカンポ・セリ・ワラビ・ノビル・アザミ・ハコベ・フキ・

カラスノエンドウ・スズメノエンドウ・カスマグサ・チチコグサモドキ・

アザミ・スズメノテッポウ・ミツバツチグリ・椿の花・

試食された野草：タケノコ・生シイタケ・タラの芽・ワラビ・フキ・アザミの葉・

ノビル・ヨモギ・セリ・ハコベ・スカンポ・カラスノエンドウ・椿の葉。

中でもタケノコ、シイタケ、タラの芽、ワラビは全員の胃袋を満たすために、前日あらかじめ少し用意しておきました。事前に山菜の準備をしてくださった会員、朝からずっと休みなく調理してくださった女性会員、会場の準備の用具を調達くださった原田会長をはじめ、会員の多くの皆様にこの場をお借りし御礼申し上げます。おかげさまで、新会員の方々より、友人知人を誘いたいとの申し込みがさらにありました。私たちの行事が素敵だったようです。

調理された山菜はほぼ完食し、新会員の皆様にも満足な試食会となったようです。お天気も良く、心配された事故もなく無事新年度のスタートが切れました。今後ともよろしくご協力をお願いいたします。お疲れさまでした。

【写真集】



原田会長 挨拶



関根事務局長



中本副隊長



若林会員



注意事項の説明



春の七草の説明 ～いずれも原谷会員



調理された山菜（上）と試食会（右）



親子自然観察隊の感想

★福永大登、麻衣子（母）

本日は大変お世話になりました。途中で抜けて、ご迷惑をおかけしました。今日は親子共々楽しく過ごす事が出来ました。息子は初めてのタケノコ掘りを体験することが出来ました。

苦労した様子ですが、取れた時には、とても喜んでました 😊

山菜取りも、色々教えて頂き、また天ぷらも、どれも本当にお美味しかったです(´-`)

息子はタケノコ美味しー **!** と喜んで食べました 😊 □

ビオトープは自然豊かで、とても良い所ですね。また参加させて下さい。ありがとうございました。

★有吉遼

タケノコほりでは、掘る場所やどう掘るか、どう曲がっているかなどを考えてしんちょうにやりました。なので、ぬけた時はとても気持ちよかったです。

★有吉(母)

2年前初めて参加した時は、手をかして、時間をかけながらほったタケノコでした。今年は道具も自分で運び、さくさくと掘っていく姿に、子供の成長を感じました。

★溝邊寛人

たけのこ掘りは難しかったですが、たくさん収穫できて満足です。野草や筍の天ぷらがすごく美味しくて食べすぎました！

★溝邊義人

筍やせりやよもぎがたくさんとれて嬉しかったです。筍の小さい頭を探すのは宝探しみたいで楽しかったです。

★溝邊(母)

こちらの都合で早退するのにもかかわらず、食べれるように配慮してくださりありがとうございました！美味しかったです お友達もすごく喜んでいました

7. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(38) イチモンジチョウ *Limenitis camila* (タテハチョウ科イチモンジチョウ亜科)

翅の表は黒地に白い帯のある中型のタテハチョウ。平地～山間地の林縁部や低木林のある場所を好み、スイカズラやタニウツギなどの食草の生える場所に多く見られます。都市部ではあまり見られませんが、丘陵地や山地の溪流沿いでよく見られます。

5月、7月、9月と年3回ほど発生しますが、ビオトープ周辺では須賀河内川の上流部で5月中旬によく見られます。そっくりさんのチョウも多いので見誤ることが多く、要注意です。(よく似たチョウ：アサマイチモンジ、ミスジチョウ、コムスジ、ホシミスジ)



イチモンジチョウ



イチモンジチョウ



ホシミスジ



コムスジ

アサマイチモンジ
(山口市徳地)



参考文献

須田真一・永幡嘉之 他、2012. フィールドガイド日本のチョウ. 327pp. 日本チョウ類保全協会. 東京.

工藤誠也、2018. 美しい日本の蝶図鑑. 335pp. (株) ナツメ社. 東京.

8. 会よりの連絡事項

- 1) 次回はビオトープ水路の溝組合の溝普請作業前に、前もって済ませておかなければなりません。特に市道側溝のイノシシ被害に遭った20mと取水井出から第一水戸までを行っておきたいと思えます。5月5日の活動日はゴールデンウィークの真ただの中ですが、稲作体験に向かったの活動がはじまりますのでよろしくお願いいたします。

9. 編集後記 (原谷 一誠 記)

総会でも話題に上がりました水車ですが、これは市の管理物でもなく、つくる会の設置物です。これはビオトープのランドマークとのイメージがありますが、里山には水車とは誰でも思いつくものです。現状では、故障しており動きません。このままで良いのか、修理して動くようにするのが良いのか、いろいろとアイデアも出ていますが、修理するとなれば、多くの金額が必要となります。お金を掛けて修理するのであれば、この動力を利用して臼引きなどを考えてはとの意見もあります。ビオトープに水車は必要でしょうか。それも多くのお金を掛けてまで修理する必要もあるのでしょうか。もしつくる会が解散することでもなれば、この水車は撤去しなくてはなりません。来年の20周年に向けて水車を復興させるとのアイデアも出ていますが、ここで今一度考えてみることも必要ではありませんか。でも修理の話も進んでいます。どうすることが良いのでしょうか。